

# 「ヤクルトCSR行動計画」 (2023年度活動結果)

- 対象期間 国内:2023年4月～2024年3月 海外:2023年1月～12月
- 達成度
  - ◎:十分な成果(目安:100点(%)以上)
  - :概ね目標どおりの成果(目安:80点(%)以上100点(%)未満)
  - △:取り組みが不十分(目安:80点(%)未満)
  - ×:取り組みなし(目安:0点(%))

**Yakult**

# E (環境)

## ■マテリアリティ：気候変動／プラスチック容器包装／水

| 課題                  | 2023年度<br>行動目標  | 2023年度の主な活動結果  | 達成度 |
|---------------------|---|--|-----|
| 脱炭素社会の実現            | 1. 温室効果ガス排出量(国内スコープ1・2)を2024年度末までに2018年度比10%削減  | ●CO <sub>2</sub> 排出量 46.4%削減(2018年度比)  | ◎   |
|                     | 2. (1)プラスチック製容器包装の使用量(国内)を、2024年度末までに2018年度比5%削減あるいは再生可能な素材に転換する<br>(2)容器包装の資材使用量を削減<br>(3)容器包装の素材変更により環境負荷を低減<br>(4)容器包装に植物由来の環境にやさしい素材を使用 | ●プラスチック製容器包装使用量<br>24.8%増加(再生可能でないもの)(2018年度比)   | ×   |
| 資源循環できる<br>容器包装への転換 |   |  |     |
| 水使用量の削減             | 3. (1)水使用量(国内乳製品工場:生産量原単位)を2024年度末までに2018年度比3%削減<br>①節水活動<br>②「水の管理計画」策定  | ●用水使用量(生産量原単位) 15.8%削減(2018年度比)  | ◎   |
| 廃棄物の削減              | 4. (1)廃棄物発生量を2024年度末までに2010年度比20%以上削減<br>(2)食品廃棄物の再資源化率95%以上の維持   | ●廃棄物発生量 18.7%削減(2010年度比)<br>●食品廃棄物の再資源化率 99.5%   | △   |
| 生物多様性の<br>保全と活用     | 5. 生物多様性の保全と活用<br>(1)自然保全活動の支援・参画<br>(2)生物多様性に関する教育の推進  | ●植樹活動の実施(全国工場、研究所など13か所)<br>●オイスカ「子供の森」計画支援。<br>●イスタパルカでレモンの苗木を寄贈。(メキシコ)<br>●内モンゴル自治区の砂漠環境改善のため、2015年から植林公益事業に参加し、活動を継続。(中国)<br>●世界各地で植林活動を展開するグローバルウェブプラットフォーム「ツリーダム」との提携活動を継続(ヨーロッパ) | ○   |

## ■マテリアリティ：イノベーション

| 課題                 | 2023年度<br>行動目標            | 2023年度の主な活動結果  | 達成度 |
|--------------------|---------------------------|--|-----|
| 商品・サービスを通じた社会課題の解決 | 1.社会課題解決に貢献できる商品の継続検討     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤクルト独自の「ガラクトオリゴ糖」を活用した犬用サプリメント「MediSuppli(メディサプリ)ガラクトオリゴ糖」MediSuppli+(メディサプリ プラス)」シリーズを発売。</li> <li>●お客様のニーズに対応した機能的ベネフィットが備わった商品である、「ヤクルト400W」(機能性表示食品/2020年発売)をリニューアル発売</li> <li>●「Y1000」の液漏れに関するお申し出を踏まえ、アルミキャップを改良。</li> </ul> | ◎   |
|                    | 2.社会課題解決に貢献できる研究の継続       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部研究機関との共同研究を通じ、健康課題や社会課題を解決する新たな価値の提供を目指した研究開発の実施。</li> <li>●社会のニーズに対応した伴侶動物に向けた商品の研究開発。</li> </ul>   | ○   |
|                    | 3.各国・地域のニーズに合った商品・サービスの検討 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●高菌数高付加価値商品である「ヤクルト500億ライト」を発売。(中国)</li> <li>●低糖タイプの「ヤクルトゴールド」を発売。(シンガポール)</li> <li>●ヤクルト類の包装※について、プラスチック製包装から紙製包装への切り替えの完了。(ヨーロッパ)</li> </ul> <p>※マルチパック用の包装および運搬用の外装</p>  | ○   |

## ■マテリアリティ：地域社会との共生

| 課題                                  | 2023年度<br>行動目標                     | 2023年度の主な活動結果   | 達成度 |
|-------------------------------------|------------------------------------|---|-----|
| 社会貢献活動の<br>推進<br><br>地域課題解決への<br>貢献 | 1.出前授業、健康教室の<br>推進                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業:4,360回、参加人数231,260人(前年差:851回、59,621人)</li> <li>・健康教室:69,353回、参加人数366,968人(前年差:37,906回、143,832人)</li> <li>・美容教室:1,182回、参加人数12,679人(前年差:217回、4,500人)</li> </ul> </li> <li>●海外:オンラインおよび対面での活動を推進し、地域のお客さまとのコミュニケーションの維持、強化に努めた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業:55,959回、参加人数3,327,615人(前年差:30,471回、1,570,657人)</li> <li>・健康教室:249,526回、参加人数10,207,045人(前年差:8,619回、791,269人)</li> </ul> </li> </ul> <p>※集合型、オンライン合計。</p> | ◎   |
|                                     | 2.工場・中央研究所への<br>見学者の受け入れ<br>推進     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内:・工場見学人数 33,468人 (乳製品工場、化粧品工場、ヘルスフーズ合計) ※集合型、オンライン合計。<br/>・中高生対象のオンライン企業訪問プログラムの実施。(11校、877人受講)</li> <li>●海外:工場見学者人数 925,251人 ※集合型、オンライン合計。</li> </ul>  | ○   |
|                                     | 3.愛の訪問活動、地域の<br>見守り防犯協力活動の<br>継続推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●愛の訪問活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施販売会社:50社、115の自治体から要請を受けて実施。<br/>対象高齢者数:30,343人、協力ヤクルトレディ数:2,310人</li> </ul> </li> <li>●地域の見守り・防犯協力活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施販売会社:95社、927の自治体等と連携実施。<br/>実施センター数:1,926、協力ヤクルトレディ数:24,454人</li> </ul> </li> </ul>   | ○   |

## ■マテリアリティ：地域社会との共生

| 課題                                   | 2023年度<br>行動目標        | 2023年度の主な活動結果  | 達成度 |
|--------------------------------------|-----------------------|--|-----|
| 社会貢献活動の<br>推進<br>・<br>地域課題解決への<br>貢献 | 4.地域課題解決への<br>貢献活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●遊技事業協同組合と連携した障がい者福祉施設における社会貢献支援活動を実施。<br/>(22都道府県65施設、合計約55万本当社商品に年賀シール等の貼り付けを依頼)</li> <li>●Web「大腸がん情報サイト」を運営。大腸がん検診の受診を啓発するトピックスを配信。</li> <li>●各工場や研究所近隣のイベントへの協賛や寄付、社会貢献活動を継続実施。</li> <li>●国立市と災害時の水供給について協定を締結、子ども110番への協力。</li> <li>●海外における各種シンポジウムを主催、共催。(5か所)</li> <li>●「ピンクリボン」活動への協賛、協力。(シンガポール、ベトナム)</li> <li>●JICA との協働によるサンプリング活動の実施(インド)</li> <li>●高齢者の見守り活動。「朝食1人前」(朝ごはん活動)を支援。(中国)</li> <li>●高齢者や児童の貧困を含む、社会的弱者への支援。(イギリス、イタリア、ドイツ、インドネシア、広州)</li> </ul> | ○   |
|                                      | 5.スポーツ振興の推進           | <ul style="list-style-type: none"> <li>●野球教室の開催<br/>野球教室(現役選手):10会場、つばめスポーツ野球教室:3会場</li> <li>●「ヤクルトランニング教室」の開催</li> <li>●「戸田ラグビー祭」への協力、「ラグビー教室」開催、「レビンズラグビー祭」開催</li> <li>●「蕨警察署交通安全キャンペーン」への協力</li> <li>●全日本バウンドテニス選手権大会の開催:6月(参加者:960人)</li> <li>●日本バウンドテニスゴールド大会の開催:10月(参加者:193人)</li> </ul>   | ○   |
|                                      | 6.工場祭の実施による<br>地域との交流 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●各工場の工場祭は中止。</li> </ul>   | ×   |

## ■マテリアリティ： サプライチェーンマネジメント

| 課題                             | 2023年度<br>行動目標  | 2023年度の主な活動結果   | 達成度 |
|--------------------------------|-----------------|---|-----|
| CSR調達の推進<br>・<br>「安全・安心」な商品の提供 | 1.CSR調達の継続推進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内外サプライヤーのリスク把握。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR調達アンケート：152社</li> <li>・Sedex 自己評価アンケート(SAQ)の回答を活用：101社</li> </ul> </li> <li>●サプライヤー向けCSR調達方針説明会をオンラインで実施。(約160社、約400人が参加)</li> <li>●乳製品、清涼飲料用包装資材(紙容器、段ボール)について、国際森林認証紙の包装資材を採用し、森林認証マークを追加表示。</li> <li>●「ヤクルト400」類用ラベル、再シュリンクフィルムの薄肉化を行い、プラスチック使用量を削減。</li> <li>●乳製品用紙容器用ストローのバイオマス素材化を行い、石油由来プラスチック使用量を削減。</li> <li>●化粧品の一部の個装箱に国際森林認証紙の包装資材を採用。</li> <li>●医薬品の一部の個装箱に再生紙を使用。添付文書の電子化による紙削減。</li> </ul> | ◎   |
|                                | 2.「安全・安心」な商品の提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「あんぜん・あんしんクリニック」の「お届け健康診断」を活用し、ヤクルトレディのセルフチェックを実施。(18,433人実施)</li> <li>●ヤクルトレディ向け冊子「けんちょう」に毎号「お届け品質」に関する情報を掲載したほか、8～9月に「顧客対応」強化期間を設け、「私たちのアカサタナ」をテーマとした研修・活動を展開。</li> <li>●ヤクルトレディに対し、「安全・安心強化期間」(9月～11月)を定め、商品管理、交通安全に対する取り組みを強化。</li> <li>●工場責任お申し出品に対する再発防止策を実施。<br/>実施率:100%(41件/41件)</li> <li>●海外事業所への赴任者を対象に製造管理および品質管理に関する技術研修会を実施。<br/>受講者:赴任予定者34人(在宅勤務者はオンラインで参加)</li> </ul>  | ○   |

## ■マテリアリティ： サプライチェーンマネジメント

| 課題                             | 2023年度<br>行動目標 | 2023年度の主な活動結果   | 達成度 |
|--------------------------------|----------------|---|-----|
| CSR調達の推進<br>・<br>「安全・安心」な商品の提供 | 3.各種国際規格認証の推進  | ●海外工場 ※新規取得なし、既存認証を更新。<br>・取得数:HACCP(17)、GMP(8)、ISO 9001(9)、ISO 14001(6)、ISO 22000(8)、FSSC 22000(3)、SQF(2)、ISO 45001(2)<br>・ハラール認証(台湾、タイ2工場、フィリピン、シンガポール、インドネシア2工場、マレーシア) | ○   |

| 課題                                      | 2023年度<br>行動目標     | 2023年度の主な活動結果   | 達成度 |
|---|--------------------|---|-----|
| 人権の尊重<br>・<br>ダイバーシティの推進                | 1.人権デュー・ディリジェンスの推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●採用活動における差別禁止の徹底。<br/>(面接官への禁止・配慮事項に関する教育実施、採用ホームページ内に「雇用の差別禁止についての方針」を明示)</li> <li>●本社にて階層別研修(新入社員・新6等級・新8等級)にて人権に関する研修を実施。</li> <li>●ヤクルトグループ従業員を対象とした「ビジネスと人権」啓発月間の実施(動画資料によるeラーニング)。</li> <li>●社員の心身の健康状況を把握するため、本社にて「社員ウェルビーイング調査」を実施。結果を各部署・事業所に報告。</li> <li>●Sedexを活用した、自社・サプライチェーン上の従事者の人権課題の調査。</li> <li>●海外事業所における内部通報制度導入の有無を調査。</li> </ul> | ○   |
| ワークライフバランス<br>の推進<br>・<br>労働安全衛生の<br>推進 | 2.ハラスメントの防止        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●階層別教育および海外赴任予定者を対象とした海外赴任前研修で、ハラスメント防止について啓発。</li> <li>●一部のボトリング会社、販売会社に対して本社法務部門がコンプライアンス研修を実施。</li> <li>●ハラスメント防止を目的としたアニメーション研修動画を作成し、国内のヤクルトグループすべての従事者に対しインターネット配信、視聴促進を実施。</li> <li>●国内グループのコンプライアンス担当者が、自社・自部署においてハラスメント研修ができる研修資料を提供。</li> <li>●ハラスメント動画やハラスメント防止ブックを活用し、啓発・周知活動の実施。</li> <li>●コンプライアンス担当者向けの研修を実施。(参加者:263人)</li> </ul>      | ◎   |
|   | 3.ダイバーシティの推進       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●女性管理職比率の向上:目標2025年度までに10%以上に対し、13.3% ※ 2024年4月集計</li> <li>●海外事業所における女性活用状況の把握。<br/>ヤクルトレディ:50,309人 【女性比率】取締役:19.3%、管理職:32.2%、社員:31.6%</li> <li>●障がい者雇用率:2.48% (法定雇用率2.3%の維持)</li> </ul>   | ◎   |



| 課題   | 2023年度<br>行動目標  | 2023年度の主な活動結果  | 達成度 |
|--|-----------------|--|-----|
| 人権の尊重<br>・<br>ダイバーシティの推進<br>・<br>ワークライフバランス<br>の推進<br>・<br>労働安全衛生の<br>推進 | 4.労働安全衛生の推進     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤクルトレディの労働環境整備のための資機材助成消化率88.0%(予算220百万円)、車両類助成997台、137百万円。</li> <li>●認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書取得数 525/685か所(76.6%)</li> <li>●ルート車両新規導入助成車両に、安全装備(バックアイモニター、ドライブレコーダーなど)を装着。48台(装着率100%)<br/>※バックアイモニター、ドライブレコーダーの取り付けを車両架装費用助成の必須条件。</li> <li>●各工場でリスクアセスメントを実施し、危険箇所の洗い出しおよび改善の実施。作業中の熱中症対策等を実施。</li> <li>●各工場で安全衛生巡視を定期的実施し、指摘事項の改善を実施。改善率97.8%</li> <li>●中央研究所でヒヤリハット活動の実施。</li> <li>●中央研究所でBCP マニュアルおよび防災マニュアルの見直し。</li> <li>●海外事業所において「労働環境調査」を実施。</li> </ul> | ○   |
|  | 5.健康経営の推進強化     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤクルト本社が健康経営優良法人(ホワイト500)の取得。(7年連続)</li> <li>●ヤクルト本社が「健康経営銘柄」に初選定。</li> <li>●Web健康講座の実施(全4回:(①生活習慣病、②男女の健康、③女性の健康、④アサーション))</li> <li>●定期健康診断結果有所見者の再検査受診率100%</li> <li>●【受診率】乳がん検診 60.7%、子宮がん検診 60.5%(速報値)</li> </ul>   | ◎   |
|  | 6.ワークライフバランスの推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●男性育児休業取得率:95%、男性育児休業平均取得日数:28日。</li> </ul>   | ◎   |

# G (ガバナンス)

| 課題   | 2023年度<br>行動目標              | 2023年度の主な活動結果   | 達成度 |
|--|-----------------------------|---|-----|
| グローバル企業として<br>ふさわしいガバナンス<br>体制の構築                          | 1.コーポレートガバナンス・<br>コードへの対応強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●取締役の譲渡制限付株式報酬制度の導入。</li> <li>●各種経営会議の定例開催。(取締役会10回、執行役員会26回)</li> <li>●社外役員が当社の研究・開発に対する理解をより一層深めるため、第10回取締役会後、中央研究所の視察を実施。</li> <li>●指名・報酬諮問委員会の開催。</li> </ul>   | ◎   |
| コーポレート<br>ガバナンス・コードの<br>実践                                 | 2.ヤクルト倫理綱領、行動<br>規準の周知徹底    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●階層別教育での説明やコンプライアンス担当者会議等で、「ヤクルト倫理綱領・行動規準」の再読促進や啓発を実施。</li> </ul>  | ◎   |
| コンプライアンスに<br>則った事業の推進<br><br>企業情報の開示と<br>社会との<br>コミュニケーション | 3.コンプライアンスの徹底               | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤクルトグループ125社を対象にコンプライアンスアンケートを実施。回答率94.5%、回答人数17,692名</li> <li>●身近なコンプライアンス違反事例を紹介する「月間コンプラニュース」を毎月発行。</li> <li>●さまざまなコンプライアンステーマを、職場単位で取り組める「グループワークスライド」として提供し、理解浸透を図った。</li> <li>●各種啓発資材をグループ内の新入社員等に適宜配付し、継続的に内容の浸透・徹底を図った。</li> <li>●法務情報を提供するデータベース「みんなの法務ルーム」の運営。</li> <li>●コンプライアンス委員会(2月、9月)を開催し、社外有識者である委員から意見・提言を受けた。</li> <li>●企業倫理委員会(4月・11月)を開催し、社外有識者を含む委員から取引の監視活動の確認および意見・提言を受けた。</li> <li>●法令違反行為の早期発見・是正を目的として、グループ会社も利用できるコンプライアンス・ホットラインを設置し運用。</li> <li>●グループ内の企業倫理の確立を図るため新規取引先事前相談制度を運用。</li> </ul> | ◎   |

# G (ガバナンス)

| 課題   | 2023年度<br>行動目標       | 2023年度の主な活動結果  | 達成度      |
|--|----------------------|--|----------|
| <p>グローバル企業として<br/>ふさわしいガバナンス<br/>体制の構築</p> <p>・</p> <p>コーポレート<br/>ガバナンス・コードの<br/>実践</p> <p>・</p> <p>コンプライアンスに<br/>則った事業の推進</p> <p>・</p> <p>企業情報の開示と<br/>社会との<br/>コミュニケーション</p> | <p>3.コンプライアンスの徹底</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヤクルト本社およびグループ会社で、コンプライアンス担当者会議を開催し(計7回)、法務情報の提供や担当者間の情報共有を実施。</li> <li>●グループ全従事者を対象にコンプライアンス強調月間を実施。自身の業務に関わる法律を学ぶ機会を提供。(2月)</li> <li>●海外事業所における内部通報制度の整備状況について、調査を実施。</li> <li>●「ヤクルト届けてネット」のセキュリティ対策を強化するため、脆弱性診断を実施。</li> <li>●ヤクルト医薬品製品情報概要審査会を開催し、社外医学専門委員にも確認していただきながら、プロモーション用資材等の審査を実施。【資材審査件数】137件</li> <li>●MR向けに販売情報提供ガイドラインの遵守を促進するための研修を継続的に実施(5月、7月、9月、11月)。</li> <li>●社外専門委員を含むコード・オブ・プラクティス審査・監督員会を開催し(6、12月)、活動の適切性の確認と助言を受けた。11月を「コード理解促進月間」と定め、対象者全員に対するeラーニングや啓発ポスターの掲示等を実施した。</li> <li>●企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインに則り、2022年度支払い分を公開した。463百万円。</li> <li>●中央研究所にて、研究倫理に関する教育(eラーニング)を実施。</li> <li>●海外事業所のITセキュリティアセスメントの実施および「ヤクルトグループ グローバルセキュリティガイドライン」の策定。</li> <li>●海外事業所の健全性を確保するための各種監査の継続実施(対面監査の再開)。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・J-SOX監査:イギリス(8月)、アメリカ(9月)、オーストラリア(10月)</li> <li>・業務監査(WEB):イギリス(8月)、オーストラリア(10月)、ブラジル(10月)</li> </ul> </li> </ul> | <p>◎</p> |